

# 歷史





## II 歴史

### 《古 代》

● Q34 下関には、遺跡がたくさんあります。弥生時代の代表的な遺跡の一つが綾羅木郷遺跡。ここで日本で最初に発見されたものに、卵形の陶器の笛があります。下関では弥生の土笛と呼ばれていますが、中国ではなんと呼ばれているのでしょうか。

- ①陶笛    ②土器笛    ③卵笛    ④陶埴<sup>とうけん</sup>    ⑤古代笛

**答え**    ④陶埴

**解説**    綾羅木郷遺跡は、弥生時代前期の集落遺跡として貯蔵用竪穴と溝を主体とし、数多くの遺構・遺物が発見されています。昭和40年（1965）からの緊急発掘調査で、旧石器時代の石器をはじめ、中世にいたる資料が発掘されていますが、特に中心となる弥生時代の遺構からは、100万点を超える土器片や石製品、土笛、農耕具、装身具、祭祀用具、炭化した米などが確認されています。特に、陶器製の土笛は、中国古代の陶埴の流れをくむもので、わが国における初めての出土例でした。

Q35 日本で初めて土笛が発見されたのは、綾羅木郷遺跡ですが、これとは別に、大型で飾りの線が刻まれためずらしい土笛が発見された弥生時代の遺跡はどこでしょうか。

- ①伊倉遺跡    ②土井ヶ浜遺跡    ③中の浜遺跡  
④下七見遺跡<sup>しもななみ</sup>    ⑤矢田遺跡

**答え**    ④下七見遺跡

**解説**    出土した土笛（陶埴）は高さ12.7cm、口から底に向け3条1対の

線が四方に向けてへラで刻まれています。

Q36 菊川町の下七見遺跡しもななみでは、発掘調査の結果、ガラス製の勾玉まがひたまが作られていたことが判りました。しかもそれは日本で作られた最も古いガラス製の勾玉であることが明らかになりました。さて、その勾玉が作られたのはいつのことでしょうか。

- ①紀元前3世紀                      ②紀元前1世紀                      ③3世紀  
④4世紀                                ⑤6世紀

**答え**      ②紀元前1世紀

**解説**      下七見遺跡の発掘調査で勾玉の鑄型が発見され、付着していたものから、この鑄型でガラスの勾玉を作ったことが明らかになりました。鑄型からみると、作られた勾玉は長さ52ミリの大型であることが判りました。この鑄型は共に出土した土器から紀元前1世紀とされました。これまで日本でガラスの勾玉が作られたのは1世紀のことと考えられていましたが、下七見遺跡の鑄型の発見により、その年代が少なくとも百数十年以上も一挙にひきあげられることになりました。

Q37 弥生時代中期の初め頃（約2200年前）に日本列島に多鈕細文鏡たちゅうさいもんきょうが登場します。この鏡は中国東北部から朝鮮半島にかけて多く分布し、鏡背面に複数の鈕（紐を通す孔が開けられたつまみ）が見られます。総じて鈕の数は2個が多く、列島でも、これまで出土した11面のうち8面が2鈕で、残り3面が3鈕です。その3面は、長崎県里田原遺跡、佐賀県増田遺跡と下関市内の遺跡で発見されています。さて、市内の遺跡とはどこでしょうか。

- ①吉母浜遺跡よしもはま                      ②綾羅木郷遺跡                      ③延行条里遺跡のぶゆき じょうり  
④梶栗浜遺跡                        ⑤土井ヶ浜遺跡

**答え**      ④梶栗浜遺跡

**解説** 大正2年(1913)に、現在のJR山陰本線を敷設する際に、箱式石棺から細形銅剣2本とともに多鈕細文鏡が1面出土しました。列島出土の11面はいずれも朝鮮半島製と考えられますが、朝鮮半島でも3鈕の例は少なく、韓国では忠清南道や全羅南・北道などの南西部で出土しています。中国の漢文化が本格的に日本列島に流入する2000年前頃より古い時期の青銅器文化の一要素として興味深い資料です。

Q38 下関市豊浦町の川棚地区のうち、国道191号より西側(海岸側)の地区で発見された弥生時代の埋葬遺跡は、次のうちどれでしょうか。

- ①上ノ浜遺跡                      ②中ノ浜遺跡                      ③下ノ浜遺跡  
④二ノ浜遺跡                      ⑤三ノ浜遺跡

**答え** ②中ノ浜遺跡

**解説** 昭和35年(1960)に行われた発掘調査で発見された中ノ浜遺跡では、その後も広島大学や東京教育大学などによる発掘調査が行われ、弥生時代の前期初頭から中期初頭にかけて営まれた大規模な埋葬地が姿を現しました。出土した石棺、人骨や副葬品からは、弥生人の暮らしや慣わしをうかがい知ることができます。

🎯 Q39 弥生時代の遺跡で、人骨がたくさん出ているのが土井ヶ浜遺跡です。そのなかで鳥を抱いた少女の人骨がありますが、少女の抱いている鳥はなんという鳥でしょうか。

- ①カラス                      ②スズメ                      ③ニワトリ                      ④カモ                      ⑤ウ

**答え** ⑤ウ

**解説** 国指定史跡の土井ヶ浜遺跡は、300体もの弥生人骨が集団で埋葬された遺跡。浜の砂に含まれた貝粉のカルシウム分が骨を守り、人骨は不思議なほど保存状態が良好でした。平成5年(1993)に人類学

ミュージアムが建設され、展示・解説をしています。<sup>やしり</sup>鏝が突き刺さった人骨や、<sup>う</sup>鶺鴒を抱いた少女の人骨があり、大変興味深いミュージアムとなっています。

Q40 自然災害の少ない菊川町は、古来より生活のし易い土地であったといわれています。その証拠には小高い丘で近年古墳群が発掘されたことから窺えます。現在、公園として整備されている古墳名は何というでしょう。

- ①田部古墳      ②吉賀古墳      ③植松古墳      ④岡枝古墳  
⑤船場古墳

**答え**      ③植松古墳

**解説**      今から1,300～1,400年前のこの地を治めていた長の墓といわれています。現在3基の円墳が残っており、うち2基は公園内に移設されたものです。

Q41 下関市内に造営された古墳時代の前方後円墳のうち、山口県西部最大ともいわれる川中地区の<sup>じんまやま</sup>仁馬山古墳では、平成20年（2008）度までに実施された発掘調査によって、具体的な構造が明らかになりました。では、この古墳にはどのような埋葬施設が採用されていたでしょう。

- ①竪穴式石室      ②横穴式石室      ③箱式石棺      ④<sup>ねんどかく</sup>粘土槨  
⑤木棺直葬

**答え**      ④粘土槨

**解説**      平成3年（1991）に国の史跡に指定された仁馬山古墳では、将来の史跡整備に向けて、現在、発掘調査を実施しています。これまでの発掘調査の結果、後円部の中央には、割竹形の木棺を粘土で被覆した粘土槨が存在することが確認されました。また、棺の長さは6.2mにもおよぶ長大なものであることが明らかとなりました。

🌐 Q42 「古事記」「日本書紀」にも下関が登場します。仲哀天皇と神功皇后が九州の熊襲を討つため穴門の豊浦に着いて、豊浦宮を造ったと書かれています。豊浦宮は今のどの神社の場所に造られたのでしょうか。

- ①赤間神宮      ②住吉神社      ③忌宮神社      ④豊功神社  
⑤櫻山神社

**答え**      ③忌宮神社

**解説**      「日本書紀」をみると、仲哀天皇2年（193）6月、九州に熊襲が反乱を起こして天皇が追討のために西下、穴門の豊浦津、今の下関市長府に着かれ、妃の神功皇后を呼び寄せられ豊浦宮を造営、この地に7年ばかり宮居されていたことが書かれています。この豊浦宮の造営の跡が、実は今日の忌宮神社地であるといわれ、昭和30年（1955）4月、豊浦宮趾保存会の手で境内地内にある長府図書館横に「豊浦皇居趾」の記念碑が建立されました。

Q43 仲哀天皇（第14代）の殯葬所といわれるところが菊川町にはありますが次の中の何処でしょうか。

- ①六万坊山頭      ②勝陣山頭      ③西嶽山頭  
④六部山頭      ⑤高畑山頭

**答え**      ③西嶽山頭

**解説**      仲哀天皇の後である神功皇后が天皇の遺体を埋葬し、戦勝を祈願したところとして言い伝えられているところです。①は395m ②は345m ③は713m ④は256m ⑤は325mの山々で菊川町内にあります。

🌐 Q44 大化の改新（645）の後、全国に国・郡の制度が設けられ、下関地方は長門国として、その国府を豊浦に置いたとあります。さてその場所は現在の町名の由来にもなっていますが、なんとという場所でしょうか。

- ①長府      ②壇之浦      ③唐戸      ④清末      ⑤小月

**答え** ①長府

**解説** 大化の改新の後、従来の国造の制度が廃止され、国・郡が設けられました。「日本書紀」には650年2月の条に穴戸国の国名が初めてみえ、665年8月の条に初めて長門国の国名がみえます。長門国は厚狭・豊浦・美祢・大津・阿武の5郡からなり、その地方行政官庁である国衙が置かれ、国府と定められたのが豊浦津の地で、長門の国の国府ということから、長府という地名が生まれました。

Q45 日本で初めて鑄銭所ちゅうせんじょを置き貨幣を鑄造した場所はいくつかありますが、長門の国もその一つです。その場所はあるお寺の境内あたりですが、なんというお寺でしょうか。

- ①覚苑寺      ②功山寺      ③笑山寺      ④引接寺      ⑤日頼寺

**答え** ①覚苑寺

**解説** 「続日本紀」には、元明天皇げんめいの和銅元年（708）2月の条に「はじめて催鑄銭司をおき、従五位上多治比真人三宅麻呂をもってこれに任ず」とあり、鑄銭所は記録に載ってなく遺跡の発掘によれば近江・河内・山城・武蔵・長門（のち周防）などに設けられました。また鑄造所といわれる播磨・大宰府は鑄銭司を置くなどの記録や遺物の確認はされていません。このとき造られた貨幣が「和同開珎わどうかいちん」。覚苑寺境内周辺から鑄銭用の坩堝や銭范の残欠が発見され、鑄銭所跡であったことが確認されています。現在、長府鑄銭所跡には国指定史跡の石標が建てられ、重要文化財に指定されている遺物は、長府博物館に保管・展示されています。

Q46 奈良の平城宮では「長門国豊浦郡都濃嶋所出稗海藻天平十八年（746）三月廿九日」と墨書された荷札木簡が出土しています。古代の税制により「調」（地方特産品）として角島のワカメが都へ納めら

れたものと思われませんが、この角島のワカメを食したかもしれない、時の天皇はどなたでしょうか？

- ① ちゅうあい仲哀天皇      ② じとう持統天皇      ③ しょうむ聖武天皇      ④ あんとく安徳天皇  
⑤ きんじょう今上天皇

**答え** ③聖武天皇

**解説** 木簡に記された天平年間は、多くの災害や疫病に見舞われ、聖武天皇は仏教に深く帰依しました。全国に造営された、国分寺・国分尼寺の建立や、東大寺の大仏建立の詔が出されたのも聖武天皇の時代です。またたびたび都を移したことで知られ、平城京から天平12年（740）のくにきょう恭仁京（京都府）遷都にはじまり、しがらきのみや紫香楽京（滋賀県）→なにわ難波京（大阪府）→せんとう紫香楽京へと遷都し、天平17年（745）にはもとの平城京に再度遷都したことにより、実に5年間で6カ所も都を移しました。角島のワカメは一回りして奈良へ都が戻った頃に、納められたわけです。

 Q47 長府には、すがはらのみちざね菅原道真が大宰府に流される途中、長府で自分の姿を写したといわれる井戸があります。この井戸はなんと呼ばれているでしょうか。

- ① みけ姿見の井戸      ② あまの天神井戸      ③ かがみ鏡の井戸      ④ みかげ御影の井戸  
⑤ みちざね道真の井戸

**答え** ④御影の井戸

**解説** 長府惣社町にある御影の井戸の言い伝えは次のとおりです。菅原道真公が大宰府に流される途中、長府に上陸され、忌宮神社の大宮司家におとまりになり、出発の前日、たんぐかわ壇貝川沿いを歩き勸学院に入って庭の井戸に自分の姿を映しました。水に映った自分の顔に向かい筆と紙を取り出して自画像をお書きになりました。こうして道真公は大宰府に渡られそこで亡くなりました。そして、道真公がのぞかれた井戸は“御影の井戸”と呼ばれ、この井戸をのぞいたものは、目がつぶ

れるという言い伝えが残りました。

🗨️ Q 48 平安時代から室町時代中後期にかけて、豊浦郡や大津郡、小月地域を治めていた豪族がいました。何と言う豪族でしょうか。

- ①厚東氏    ②毛利氏    ③豊田氏    ④大内氏    ⑤吉川氏

**答え**    ③豊田氏

**解説**    平安時代の初め頃、豊田輔平すけひらが現在の豊田町一の瀬に居を構え、子の輔行すけゆきが豊田大領たいりょうとなり豊浦郡や大津郡、小月地域を治めていました。大内氏、厚東氏と並んで山口県の3大豪族でした。平安時代の中頃、厚東氏が大内氏に滅ぼされると、豊田氏は大内氏に服属、その後、文明2年（1470）ごろ嫡流ちやくりゅうは滅び、庶流しよりゅうは他所で現在に続いています。

## 《 中 世 》

🗨️ Q 49 源平最後の合戦、壇之浦の合戦で、源氏の総大将はだれだったでしょうか。

- ①源頼朝    ②梶原景季かげすえ    ③源範頼のりより    ④熊谷直実    ⑤源義経

**答え**    ⑤源義経

**解説**    平家は一の谷、屋島と追われ、最後は平知盛ちきよむねの知行国とされる長門の国の彦島に本陣を構えます。源範頼・義経は、一の谷では有名な鶴越ひよどりこえの奇襲作戦で勝利を得ます。義経は、屋島でも平家を破り、とうとう長門国の長府沖、満珠・干珠島あたりに船を集結させ、合戦に備えます。一方源範頼は、九州豊後国に渡り、背後から平家の動きを封じました。したがって壇之浦合戦の源氏方総大将は、源義経でした。